

救急医療体制の課題

(小児科初期救急医療体制の見直し)

札幌市医療政策課
令和7年2月14日

2

1 基礎データ

札幌市の小児科初期救急医療体制

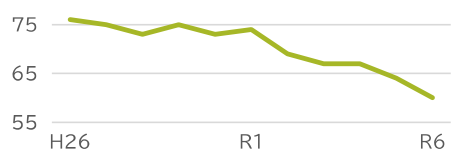
初期救急医療機関

夜間急病センター(市内1か所)
(365日19時～翌7時)

土曜午後救急当番(1施設/日)
(土曜13時～17時)(輪番制)

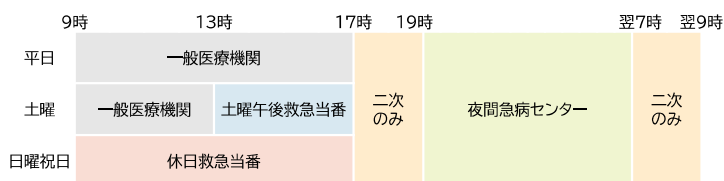
休日救急当番(2～5施設/日)
(休日9時～17時)(輪番制)

※輪番制への参画施設数:60施設(R6)



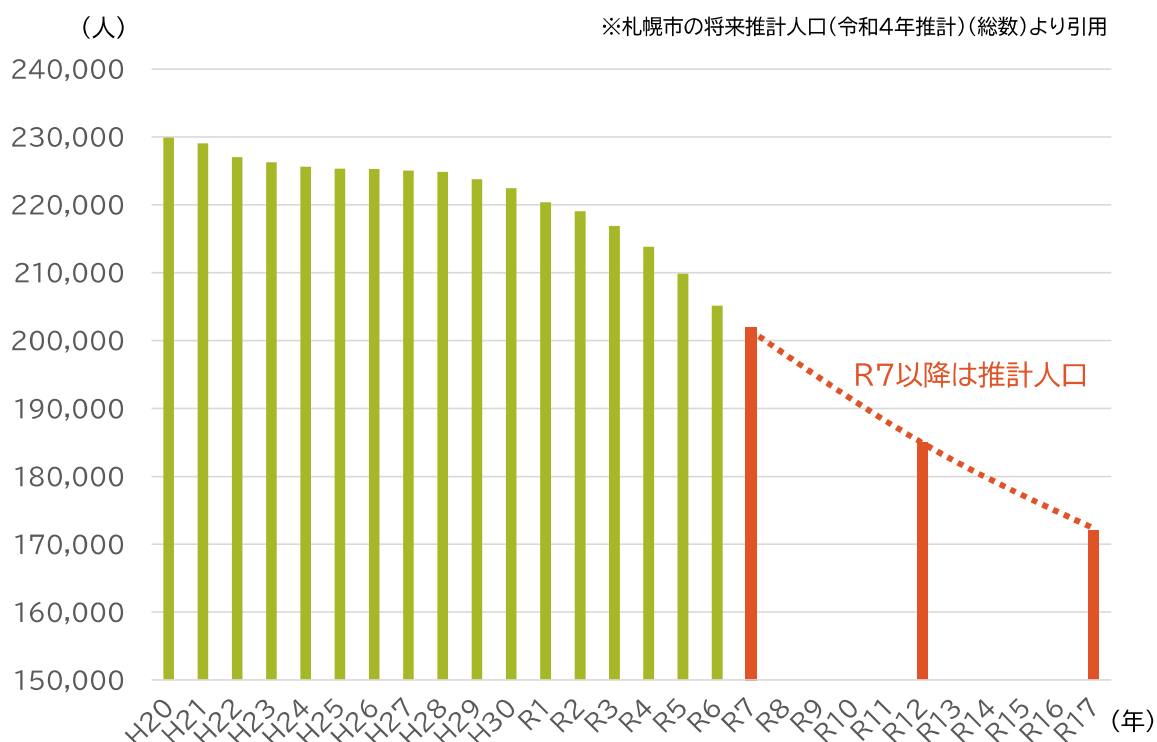
※補助金交付申請書(休日救急当番制度運営事業)ベース

札幌市の小児科診療体制(初期救急医療)



診療日	診療時間	1日あたり 当番医療機関数
土曜日	13:00～17:00	1
日曜日、祝日 (※12～3月の感染症流行期)		3 (※4)
ゴールデンウィーク (5月2日～5月6日)		4
お盆 (8月15日、8月16日)	9:00～17:00	2
年末 12月29日		4
年始 12月30日～1月3日		5

小児人口 (札幌市)



医療機関数（札幌市：小児科を標ぼう）

※厚生労働省医療施設調査(静態・動態)

	H20	R5	減少率
小児人口	229,917 人	209,880人	↘8.71%
医療機関数 (診療所)	217施設	145施設	↘33.18%
医療機関数 (病院)	31施設	23施設	↘25.81%
参画医療機関数 (休日当番)	74施設	64施設	↘13.51%

小児人口の減少率

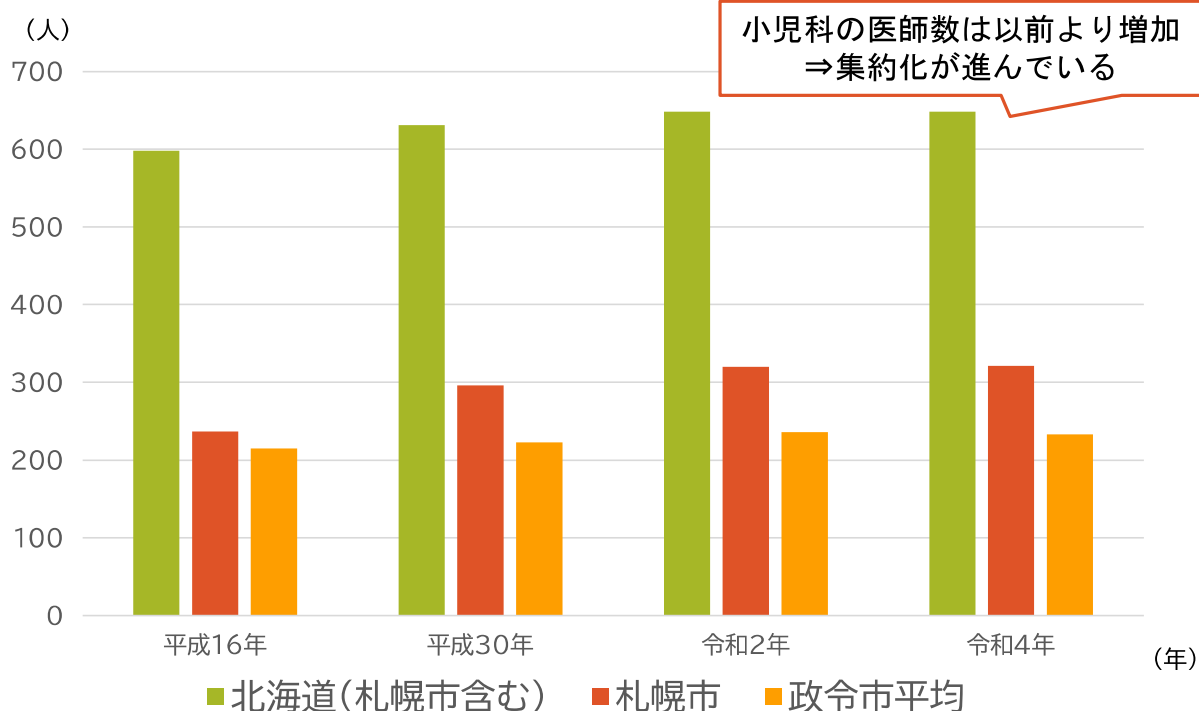


小児科を標ぼうする
医療機関の減少率

札幌市	H20	H23	H26	H29	R2	R5
小児人口1万人あたり 診療所の数	9.4	8.0	8.2	8.0	7.3	6.9
小児人口1万人あたり 病院+診療所の数	10.8	9.1	9.4	9.1	8.4	8.0

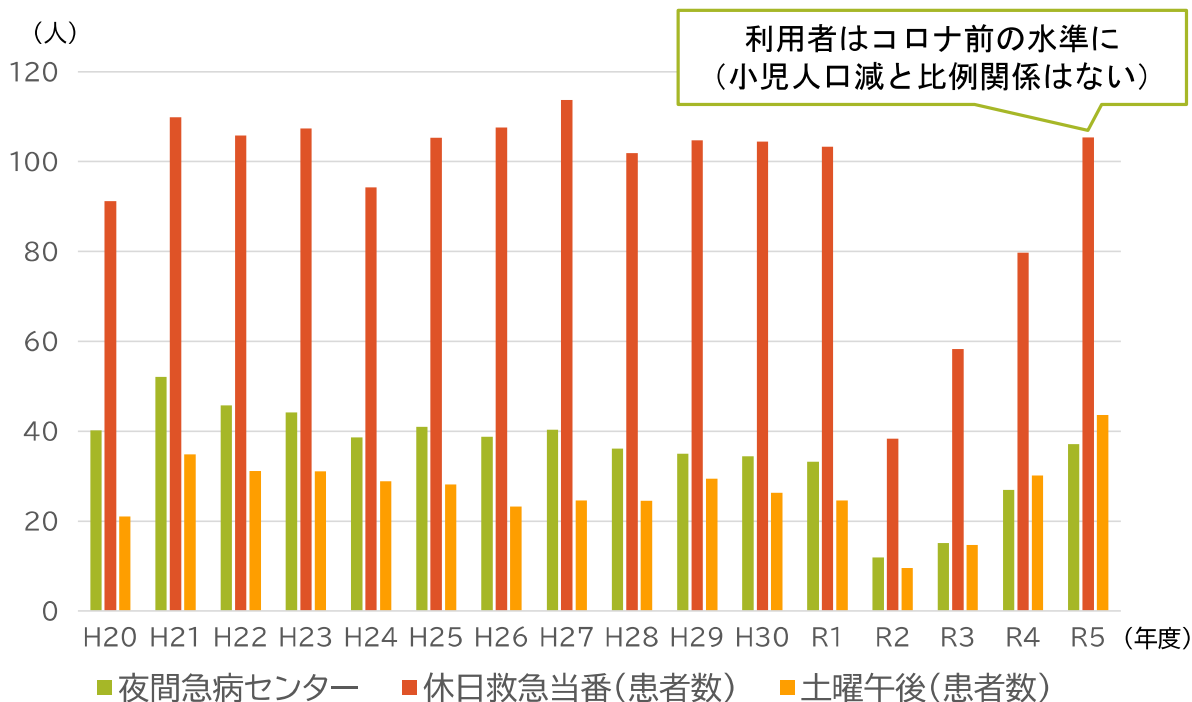
(施設)

医師数（北海道、札幌市）



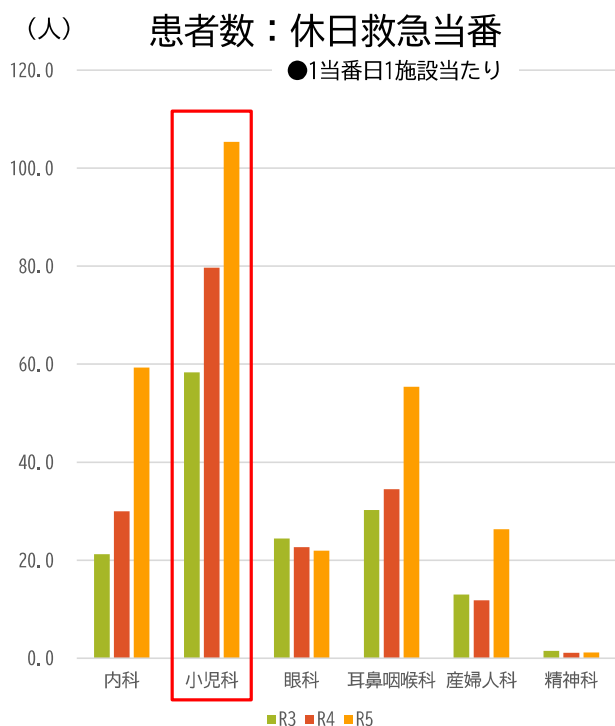
※厚生労働省 医師・歯科医師・薬剤師統計

救急医療機関を利用する患者数 (札幌市：1当番日1施設当たり)



※札幌市医師会提供データ

休日救急当番：診療系の比較 (札幌市)



※札幌市医師会提供データ

当番回数：休日救急当番 (R6)

診療系	1施設当たりの 当番回数 (回/年)
内科	1.8
小児科	4.3
耳鼻咽喉科	2.1
眼科	1.5
産婦人科	11.3
精神科	7.9

※補助金交付申請書(令和6年度休日救急当番制度運営事業)ベース

2 課題

現状・課題・見直しの方向性

●現状

- ・小児科医師については減少傾向は見られないが、小児科を標ぼうする医療機関(特に診療所)は、近年、急激に減少。
- ・一方で、小児(15歳未満)人口は減少しているものの減少率は比較的緩やかで、患者要望の変化や子ども医療助成費の対象拡大などの要因から、当面の間、患者数の減少は見られないと推測。
- ・年間の当番回数が多く、また、患者数は、感染症流行状況に係わらず非常に多いことから救急医療に参画する医療機関の負担は、他診療系と比較して大きいと推測。

●課題と見直しの方向性

- ・参画医療機関数の減少が続き、輪番制の維持が困難になっており、医療機関の負担を軽減し、持続的な救急医療体制を確保するため、体制の見直しと普及啓発等の強化を検討

	体制の見直し	普及啓発等の強化
短中期的	・休日診療（夜間急病センター）の拠点の設置 ・初期救急医療体制（休日、土曜午後）の見直し ・感染症流行期（冬期間）の小児発熱外来の継続	・適正受診の広報の推進 ・子育て世代のニーズに合わせた適正受診の推進（市民向けWEBツールの導入検討）
長期的	・休日診療拠点を中心とした体制構築の検討	

他都市の状況

休日（日中のみ）の小児科救急医療体制

輪番	拠点	主な都市名(人口:R6.4時点) 太字:政令市
○	×	札幌市(197万人)、浜松市(78万人)、旭川市(32万人)、函館市(24万人)
×	○	千葉市(98万人)、川崎市(155万人)、横浜市(377万人)、相模原市(73万人)、新潟市(77万人)、京都市(144万人)、大阪市(277万人)、堺市(81万人)、神戸市(150万人)、岡山市(72万人)、北九州市(92万人)、福岡市(164万人)、帯広市(16万人)
○	○	仙台市(110万人)、さいたま市(134万人)、静岡市(77万人)、名古屋市(233万人)、広島市(119万人)、熊本市(74万人)

他都市の多くは、拠点を中心とした小児科初期救急体制を構築している

3 審議事項

本日の審議事項

1. 拠点設置後の救急診療体制（休日・土曜）について
2. 拠点の診療体制について
3. 拠点設置後の臨時小児ドライブスルー発熱外来の継続について
4. 普及啓発事業の強化について



本日の審議内容を踏まえ、審議会への提出案を作成し、次回会議（第3回部会：3月予定）にて審議する。

審議事項① 「拠点設置後の救急診療体制（休日・土曜）について」

夜間急病センターを休日拠点として運営

（令和7年1月28日 第2回札幌市医療体制審議会にて審議）

⇒小児休日拠点の運営に求められる体制(案)を部会で検討

要検討事項

人員配置	配置人数	医師	人員確保	医師	開業医
		看護師		勤務医	
		薬剤師		看護師	夜間急病センター
		検査技師等		募集	
		受付（窓口）		その他職種	各団体からの派遣
報酬単価					
診療体制	診療日	曜日（休日、土曜午後）	診療報酬 （見込み）	受診者数	診療体制（2診、3診など）
		診療時間			回転率（診療効率）
	受診方式	通常運営（予約なし） 事前予約制		診療単価	診療・検査内容
	検査内容	ウイルス検査等の種類 画像検査（CT等）の有無			処方日数
	処方内容	医薬品の種類 処方日数			

※令和6年度第2回札幌市医療体制審議会資料より抜粋

※令和6年度第2回札幌市医療体制審議会資料より抜粋

審議事項①

「拠点設置後の救急診療体制（休日・土曜）について」

夜間急病センター拠点化に併せて、次の2点を検討

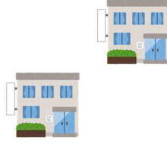
- ・ 休日救急当番の施設数
- ・ 土曜午後救急当番の施設数

拠点 1施設
(夜間急病センター)



+

当番 ?施設
(輪番)

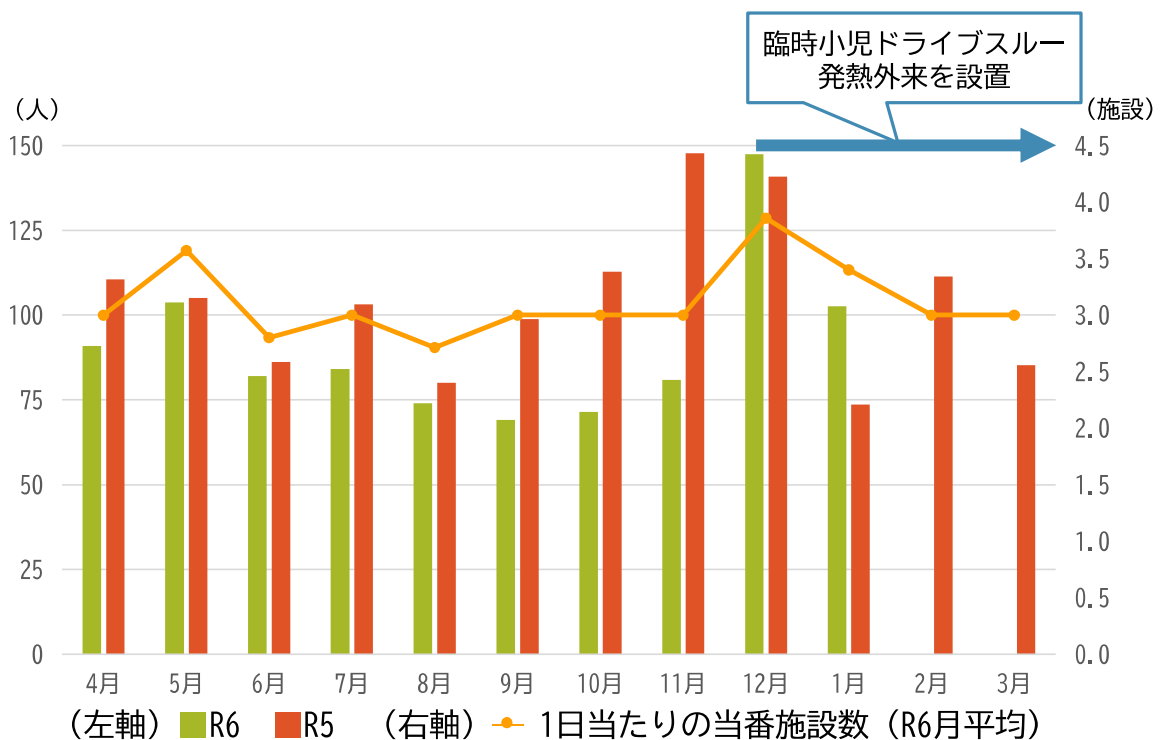


※令和6年度の小児科救急医療体制

診療日	診療時間	1日あたり当番医療機関数
土曜日	13:00～17:00	1
日曜日、祝日(※12～3月の感染症流行期)		3 (※4)
ゴールデンウィーク (5月2日～5月6日)		4
お盆 (8月15日、8月16日)	9:00～17:00	2
12月29日		4
年末年始 12月30日～1月3日		5

●参考

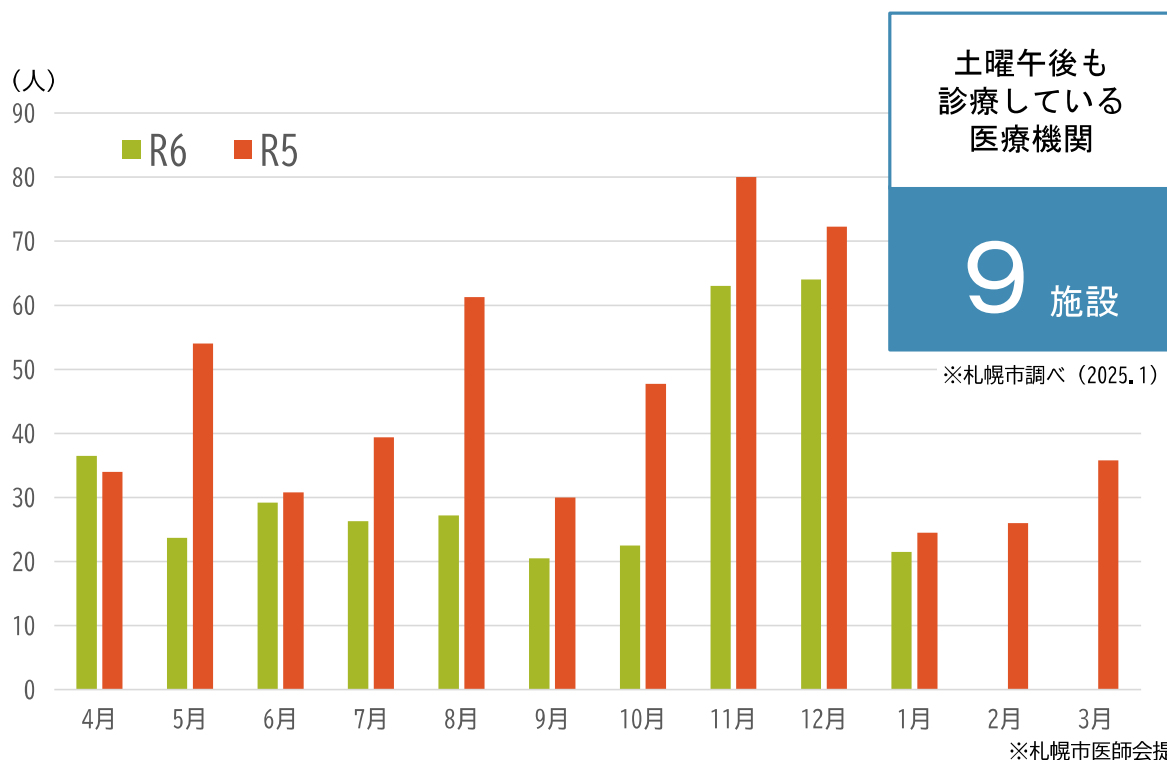
「月ごとの1当番日1施設当たりの患者数」 (休日救急当番：2～5施設/日)



※札幌市医師会提供データ

●参考

「月ごとの1当番日1施設当たりの患者数」 (土曜午後救急当番：1施設/日)



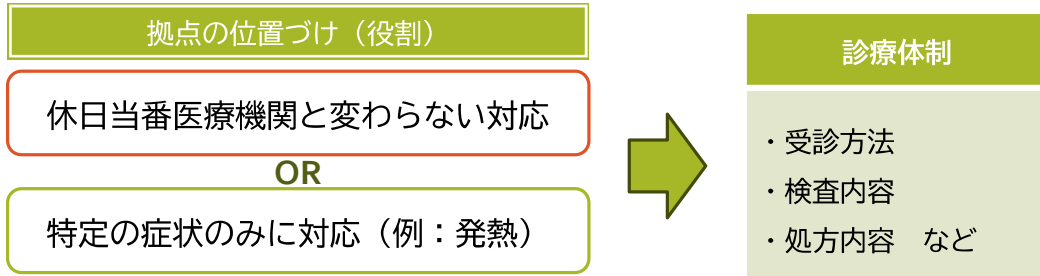
審議事項①

「拠点設置後の救急診療体制（休日・土曜）について」

			現在	休日拠点設置後（案）	
診療日		診療時間	当番医療機関数	休日拠点・診療数 （夜間急病センター）	当番医療機関
土曜日		13:00～ 17:00	1	-	1
日曜日、祝日 （※12～3月）		9:00～ 17:00	3（※4）	1	2（※3）
ゴールデンウィーク （R6:5月2日～5月6日）			4		3
お盆 （8月15日、8月16日）			2		1
年 末 年 始	12月29日		4		3
	12月30日～1月3日		5		4
1施設当たりの当番回数（休日）			4.3回/年	3.1回/年	
臨時小児ドライブスルー 発熱外来（12～3月）		9:30～ 15:00	1	1	-

審議事項② 「拠点の整備について」

① 拠点の位置づけ



救急安心センターさっぽろ（#7119）
救急医療相談の症状別件数（小児：令和5年度）

1 st	発熱	3198 件	約3割
2 nd	頭部・頸部外傷	1743 件	
3 rd	吐き気・嘔吐	1100 件	
4 th	咳	830 件	
5 th	腹痛	690 件	

審議事項③ 「拠点設置後の臨時小児ドライブスルー発熱 外来の継続について」

感染症流行期（冬期間）の小児発熱外来の継続

【事務局案】

- 1 AP2023の計画年度（令和8年度、令和9年度）
⇒ 冬期間の診療体制に必要なものとして継続する。
- 2 次期計画（令和10年度以降）における継続実施の検討
⇒ 今後の状況を見ながら継続して検討する。

年度	実施期間 (回数)	予約枠(最大)	受診者数 (1回当たりの平均)
令和4年度	R4.12.25~R5.3.21 (22回)	100人	1,611人(73.2人)
令和5年度	R5.12.17~R6.3.31 (25回)	140人	2,332人(93.3人)
令和6年度	R6.12.8~R7.3.30(予定) (27回:予定)	140人 (1/12から150人に増員)	1,282人(91.6人) ※1/26時点

審議事項④ 「普及啓発事業の強化について」

● 適正受診(休日救急当番の適正利用)の推進

【既存の取組】リーフレット等による普及啓発

【既存の取組】電話相談窓口(#7119, #8000)



⇒ 適正受診の広報の推進

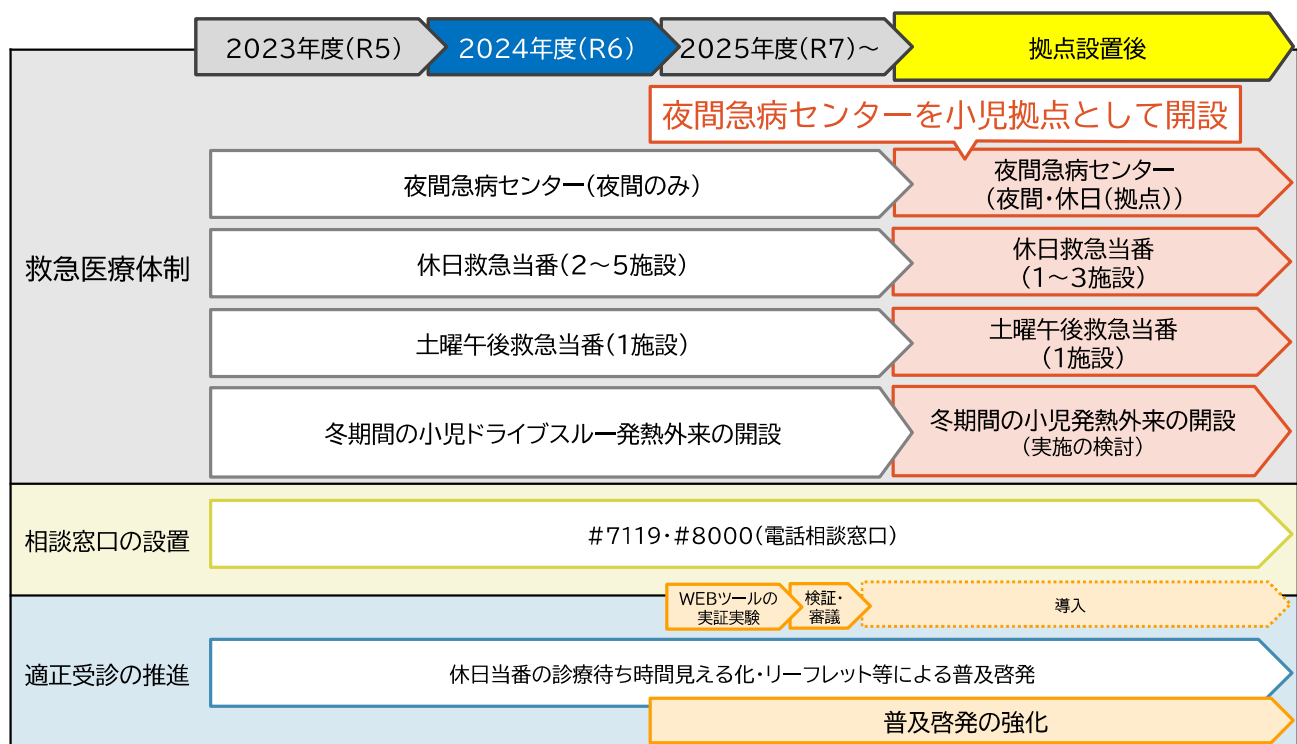
(ポスター掲示、HP掲載など)

⇒ 子育て世代のニーズに合わせた適正受診の推進を目的に、

WEBツールの導入を検討(実証実験の実施)



体制見直し案 (まとめ：短中期的)



4 長期的な見通し

長期的な体制検討の方向性

- 休日診療拠点を中心とした体制構築の検討
 - ・ 休日診療の拠点の増設(設置個所・数など)、輪番制の継続の検討

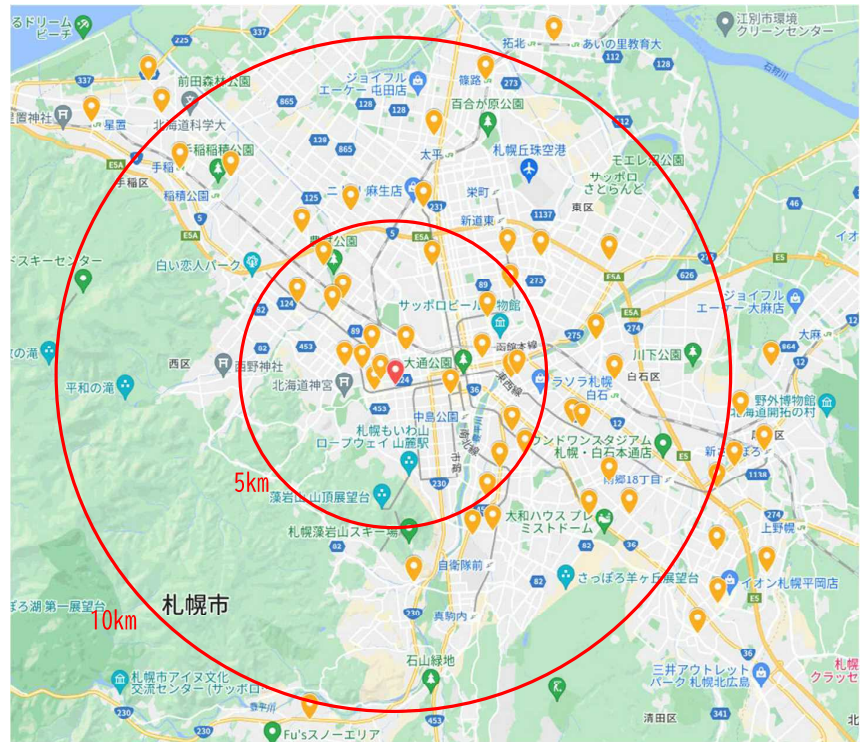
将来的に



長期的な体制検討の方向性

●休日診療拠点を中心 とした体制構築の検討 【課題】

休日診療拠点の設置場所は、
地理的な市民の利便性等を
考慮する必要がある



本日の審議事項（再掲）

1. 拠点設置後の救急診療体制（休日・土曜）について
 - ・拠点（夜間急病センター）の診療体制数 及び 当番医療機関数
2. 拠点の診療体制について
 - ・拠点の位置づけ
3. 拠点設置後の臨時小児ドライブスルー発熱外来の継続について
 - ・令和8年度及び令和9年度の継続
4. 普及啓発事業の強化について
 - ・適正受診の広報の推進、WEBツールの導入



本日の審議内容を踏まえ、審議会への提出案を作成し、
次回会議（第3回部会：3月予定）にて審議する。